

達成度調査等及び児童の学習状況から見た成果と課題		○成果	▲課題
	第4学年	第5学年	第6学年
国語	○教科達成率は85%を超えている。「読むこと」の領域の達成率は82%を超え、区の平均を2.9%上回っている。「書くこと」の領域では、達成率が71%ではあるが、区の平均を2.3%上回っている。 ▲「応用」「書くこと」が達成率が70%程度である。問われていることに対して、文で書くことができるように指導を工夫していく必要がある。	○教科達成率は90%を超えている。「読むこと」の領域の達成率は80%を超え、区の平均を1.4%上回っている。 ▲「書くこと」の領域においては達成率が77.9%であり、設問別に見ると、報告文を書く時の工夫を考える問題の正答率が低く、書き方の工夫の概要を捉えることに課題がある。この結果から、さまざまな文章表現に触れる機会などを設けるなど指導の工夫が必要である。	○教科達成率は90%を超えている。「書くこと」の領域の達成度は85%を超え、区の平均を6.4%上回っている。「読むこと」の領域の達成度は85%を超え、区の平均を1.1%上回っている。 ▲「話すこと・聞くこと」の達成率が78%であり、設問別に見ると、説明を聞いて図を選ぶ問題は57.5%、発表の工夫を選ぶ問題では72%と達成率が低かった。相手の話から適切に言葉を捉えたり、イメージしたりすることができる指導が必要である。
社会	○教科達成率は73%であり、「応用」の達成率は79%を超えている。 ▲教科達成率は73%と低めで、区の平均を4%下回っている。特に「地理的環境と人々の生活」の領域では、達成率が68%と区平均より6.9%低く、課題が見られる。地図や統計資料を活用した学習活動を充実し、地理的な見方・考え方を深める指導の工夫が必要である。	○教科達成率は74.4%であり、「知識・技能」「思考・判断」共に全国平均、区の平均と同程度である。 ▲「活用」領域の達成率が区の平均より1.4%下回っており、応用力の育成に課題がある。実生活と関連付けた課題設定や、複数の資料を比較・分析する活動を通して、思考力・判断力・表現力を高める指導の工夫が必要である。	○教科達成率は83%であり、「知識・技能」の達成度は85%を超え、区の平均を8.1%上回っている。「思考・判断・表現」の達成度は、88%を超え、区の平均を7.6%上回っている。 ▲「地理的環境と人々の生活」の領域においては、達成率が68%と区平均を6.9%下回っており課題があることから、体験的な活動や資料を活用した探究的な学習の工夫が必要である。
算数	○教科達成率は90%を超え、おおむね定着している。「図形」領域の達成率は、区平均を6.3%上回り、図形の性質に関する理解が深まっている。 ▲「数と計算」領域において、A層とD層の学力層間に50%以上の開きが見られ、指導の個別化や学習支援の工夫が必要である。	○教科達成率は80%を超え、基礎問題における正答率は区平均を1.2%上回っている。 ▲「データの活用」領域における達成率が66.3%と低い。全ての領域においてA層とD層の学力層間に50%以上の差が見られ、指導の個別化や学習支援の工夫が必要である。	○教科達成率は88%を超え、区平均を4.6%上回った。「データの活用」領域では、達成率が90%以上となり、児童のデータ活用能力の向上が見られた。 ▲「図形」および「変化と関係」の領域において、A層とD層の学力層間に50%以上の差が見られ、指導の個別化や習熟に応じた学習支援の工夫が必要である。
理科	○達成率は80%を超えおおむね定着している。 ▲「生命・地球」領域における達成率は区の平均を2.2%下回っている。実感を伴った理解を得られるように、体験的な活動を充実させる。	○教科達成率は75%を超え、おおむね理解ができている。 ▲現象の規則性を理解して、類推することに課題がある。学んだことを日常生活に生かして考える意識付ける学習活動が必要である。	○教科達成率は80%を超えている。 ▲観点別にみると「思考・判断・表現」が他の観点に比べて低い。6年生で重視される「より妥当な考え」を導き出す活動を充実する。
授業改善の方針			
国語	・日常の読書の機会を増やしていき、語彙力を高めていく。辞書、新聞、インターネットの活用、図書館利用など、言語生活を豊かにするための様々なツールや場の利用を増やしていく。 ・新聞や作文、俳句作りなどの活動を通して、様々な表現に触れる場を設定し、表現を工夫して文を書く力を高める。 ・日々の学習において、尋ねたり、応答したり、グループで考えを一つにまとめたりする活動を増やし、相手を意識して話したり聞いたりする力を高める。		
社会	・単元導入時に資料を見て疑問に思ったことや問いを児童から引き出し、主体的に学びに参加できるようにする。 ・新聞やニュースなどの情報や資料に触れたり、体験的な学習に取り組んだりする環境をつくり、様々な事象を自分事として捉えられるようにする。 ・複数の資料を比較したり、読み取ったことをグループ等で交流したりすることで、多角的な見方や考え方を働かせながら課題解決を行う。 ・単元の終末には、単元全体を通して学んできたことを白地図や新聞などにまとめ、思考を深める時間を確保する。		
算数	・単元導入では、日常生活の事象と関連付けながら児童の興味・関心を引き出し、図形やデータなどの内容に親しみをもてるように授業を構成する。 ・習熟度に応じた課題を設定し、既習事項とのつながりを意識させながら、自力解決を促す場面を意図的に設定する。 ・相互交流の場面では、児童が自分の考えを根拠をもって説明し、他者の考えと比較・検討できるように働き掛け、論理的思考力と表現力の育成を図る。 ・A層とD層の学力差が大きい領域では、少人数指導や個別支援を工夫し、特にD層の児童には段階的な支援を通して基礎的・基本的な理解の定着を目指す。		
理科	・単元導入時に、関連する既習事項や生活経験を想起させ、これから始まる学習とのつながりを意識しながら、興味や関心を高めるとともに、単元の見通しをもって学習する。 ・単元の中で「問題の見だし～予想～実験計画～観察・実験～結果～考察～結論」を繰り返し行い、問題解決能力を高めるとともに、各学年で大切にしたいことと、学年を横断して身に付けたい力を意識して指導を行う。 ・観察や実験を充実させ、児童の実感の伴った理解を促す。 ・実験結果の共有や単元の特性に応じた動画の視聴などで、ICTを効果的に活用し、理解を深めるとともに、考察に生かす。		
音楽	・授業の導入や楽曲との出会わせ方を工夫し、児童が知覚・感受したことから学習の目標を立てたり、学習の計画を立てたりして、児童が見通しをもって主体的に学習に取り組むことができるようにする。 ・知識・技能の習得については、児童の学習の状況を丁寧に把握し、きめ細やかな指導と適切な支援を行う。 ・表現を工夫し、どのように歌ったり演奏したりしたいかについて思いや意図をもつことができるよう、発問や授業展開を工夫する。		
図工	・初めての素材や技法等に意欲的に取り組む児童は多い。完成まで見通しをもって意欲を持続できるように、制作の進度や完成のイメージの確認を行う。 ・作品制作の上で、協働的な活動や対話的な活動を通して、児童の思考力・判断力・表現力等をより高める。 ・児童が制作の中で試行錯誤をする時間を大事にし、より自分らしい表現ができる時間を確保する。 ・自分らしく表現することと合わせて、著名な作家や身近な友達等の表現方法を紹介し、自らの豊かな表現につながるようにする。		
家庭	・単元ごとに、知識を学ぶ計画する一実習一振り返りという流れで学習し、知識を活用できる。 ・制作や調理実習などの体験を通して、家庭や実生活とのつながりを意識させ、学習への意欲をもたせる。 ・学習したことと日常生活の関わりが付き、社会や環境に視野を広げるとともに、SDGsにも関連付けて学習する。		
体育	・児童一人一人が学習課題に対して自己のめあてをもって学習に取り組み、成果や課題を振り返ることによって次の学習に生かす。 ・投げ方教室やコーディネーショントレーニング、キッズアスレックスなどの体験学習を取り入れ、体を動かすことの楽しさを身近に感じられる工夫をする。 ・対話的な学習活動やICT機器の利活用を通して、それぞれの運動の特性に応じた知識・技能を身に付け、よい動きを見極めたり、自己の機能や体力を自覚したりする資質・能力を育成する。		

外国語	・外国語が「よく分かる」「分かる」という児童の割合が83%であった。スモールステップを重視し、発話と対話などのコミュニケーション力に時間をかけ、ゲームや活動を通して ALT と楽しんで関わる場を設定し、コミュニケーション能力の育成を図る。また、授業時間以外にも、ALT と関わる時間が学校生活での日常となるようにする。 ・毎時間、導入として歌やチャンツをくり返し行うことで、語彙や表現に慣れ親しむ。 ・アルファベットの順番や文字を定着させるため、短時間学習の際に繰り返し取り組んだり掲示物を工夫したりして日常的に学習する。 ・高学年の外国語科では、振り返りの時間を設け、児童が自分で到達度を確認する。 ・高学年は、TGG に向けて、既習の表現を使いながら自分の伝えたいことを相手に伝えられるようにする。 ・6年生は、日光移動教室での経験を生かし、社会科見学（鎌倉）での海外の方へのインタビューに向けて計画的にコミュニケーション力を高める。
-----	---